



～進路ガイド⑨～



キャリア教育について

○ キャリア教育とは、

幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われる教育活動の総体。
(広島県教育委員会)



○ 言いかえると、

ライフステージや発達段階に応じて、求められている役割を果たそうとする意欲や、具体的な力を育て、社会生活を主体的に生きる力を育てようということです。障害の程度や状態、年齢にかかわらず、将来の生活を見通しながら、ライフステージに沿った支援を行うことが必要です。

ライフステージに沿ったキャリア発達支援				
	小学部	中学部	高等部	移行期
発達課題	○身辺自立の確立 ○人間関係の基盤形成	○社会生活能力の育成 ○自己表現力の育成	○社会生活能力の確立 ○自己選択・自己決定力の育成	○実践的な社会生活能力の向上 ○自分なりの生活スタイルの確立
主な課題	歩く、持つ、運ぶ、着替え、食事、排泄、あいさつ、仲良くする	時間、簡単な作業、役割、責任、協力、社会への関心	見通し、丁寧さ、目標設定、自己評価、社会体験、職場体験	職場・地域への適応、状況判断、計画性、金銭管理、余暇、夢

○ ポイントは、将来の生活を見通して、小さいときからしっかり育てること。



自分から

- ◎「今はできなくても、必ずできるようになる」と子どもの成長する力を信じて、根気強く、丁寧に（段階をふんで）、育てることで、**身の回りのことが一人でできるようになります。**
- ◎自分のことを自分でやれるようになると、自信が育ち、**自分で行動できることが多くなります。**

自分で

- ◎人にはそれぞれやりやすい自分なりのやり方があります。それは障害のある子どもたちでは、もっとはっきりとしています。
- ◎子どもが何かをしようとしている時、すぐに「ダメ」と言うのではなく「**一人でやりきらせる**」ということが子どもの学習能力を高めたり、**責任感を育てたりすることにつながります。**

自分らしく

- ◎自分を認め、愛してくれる人がいるという事実が、その子が**社会の中で自分らしくがんばるためのエネルギー**になります。
- ◎子どもの気持ちを支えるのは、「**子どもの悲しみや喜びに共感する**」ことから始まります。

暮らす

- ◎大切なのは、地域社会の一員としての自覚と責任をもって、自分でできることは自分でやろうとすること、そして、**できない部分は支援してほしいと伝える方法をもつこと**です。
- ◎小さいときから、**地域の人と接する機会を多くもてるように**しましょう。